

③歴史資産を活かしたまちづくり支援

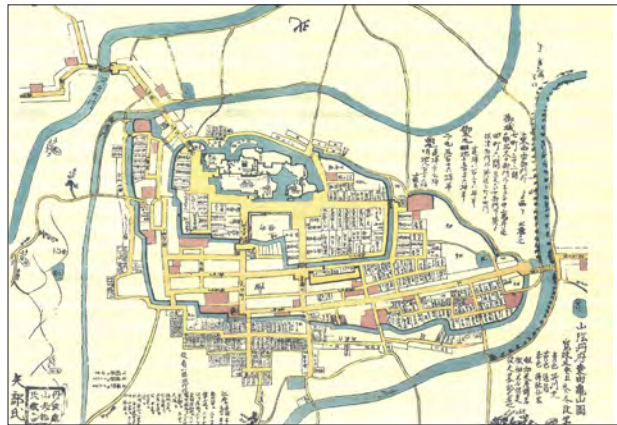
■亀岡駅南まちづくり構想策定調査～城下町まちづくり支援

【亀岡市】2019-2025

亀岡市は人口約9万人の京都府内第3の都市で、戦国時代に明智光秀が丹波亀山城を築き、町割りを行ったことでも知られる城下町である。江戸期には山陰道の交通と保津川（大堰川）の舟運で栄え、市街には由緒ある社寺や街並みが残されている。

2019年、JR亀岡駅南口から旧城下町エリアに至る約110haを対象とした「まちなみ・まちづくり構想（都市再生整備計画）」策定プロポーザルでアプルが特定された。その成果は市HPに概要版が開示され、それを機に城下町エリアのまちづくり協議会が設立され、アプルは「城下町エリア伝建地区指定に向けたアドバイザー業務（21～22年）」、「城下町地区まちづくりアドバイザー業務（23～25年）」等に継続的に関わってきた。

その間に国（文化庁）支援の「旧亀岡城下町地区伝統的建造物群保存対策調査（23～24：立命館大学大場・平尾研究室ほか）が実施され、具体の登録有形文化財指定など、まちなみ保存修復への機運が醸成されつつある。そのなかで「京都亀岡城下町まちづくり憲章（25年）」が住民間で共有されてきた。



1793（寛政5）年の亀岡城下町（旧丹波亀山城下町）の絵図／亀岡市郷土資料館蔵



城下町各所に残る銘識の例



亀岡祭りの山鉾・全11基の紹介（出典：亀岡祭山鉾行事HP）



市民意見交換会を伝える「から版2号」



市民意見交換会でのポストイットシート例



城下町まちづくり協議会幹事会のひとコマ（2024年）

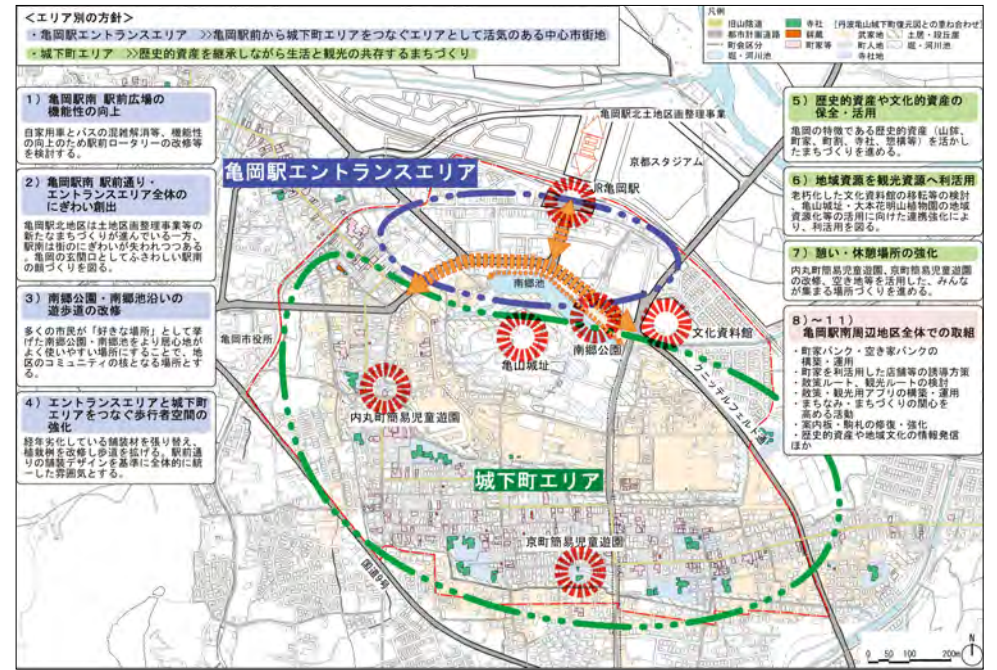
亀岡祭  
（出典：亀岡市観光協会、亀岡祭山鉾行事HP）

丹波の祇園祭として親しまれている亀岡祭は、叡山神社の叡山宮・八幡宮二社の例祭。亀岡最大の秋祭りとして、大いに賑々。亀岡祭の山鉾は全部で11基、23日の宵々山に各町廻り合って山鉾を建て、ちょうちんが飾られる。25日には山鉾巡行が行われる。

概要  
古い土地の祭神を母体としながらも、亀山藩主を始めとする支配階級の祭神をも合祀した叡山神社の祭礼を媒体として領民との和合を図る中で、亀山藩の保護のもと町衆の祭りとして執り行われてきた。

山鉾一覧  
●曳山（ひきやま一形形式）  
銀山鉾・くわやまこ（平成17年に昇山から曳山に復元新調）  
八幡山鉾・はちまやまほこ  
武内山鉾・たけうちやまほこ  
三輪山鉾・みわやまほこ  
高砂山鉾・たかさごやまほこ  
難波山鉾・なんばやまほこ  
羽衣山鉾・はごろもやまほこ（平成14年に復元新調）  
翁山鉾・おきなやまほこ  
※上記8基の山鉾には、伝承されている「曳山囃子」がある。  
昇山・かきやま  
蛭子山・えびすやま  
稲荷山・いなりやま  
浦島山・うらしまやま

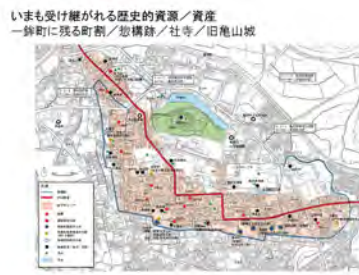
■亀岡駅南まちづくり構想策定調査～城下町まちづくり支援（つづき）



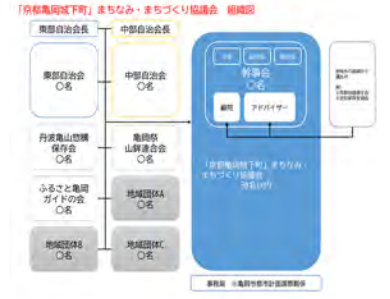
まちなみ・まちづくり構想／市HP公開版（概要版）



市内の歴史的建物の活用事例



まちなみまちづくり協議会勉強会資料の一例



- 「京都亀岡城下町」まちなみ・まちづくり協議会がめざすまちの姿
- 歴史的資産や文化に愛着を持ち、これらを守り伝えるまち
  - 一軒家や③想構えに関する項目を想定
  - 城下町の誇りである亀岡祭・山鉾行事を継承するまち
  - 亀岡祭・山鉾行事の継承に関する項目を想定
  - 城下町という魅力で人を惹きつけるまち
  - 城下町らしさを示すハード面・ソフト面の整備に関する項目を想定
  - 城下町のにぎわいや人のつながりを大切にすることを想定
  - 文化財等の活用や③商店街のにぎわいづくりとの連携、④ご近所付き合いなどに関する項目を想定
  - 城下町の風情と人々の暮らし方との調和に配慮したまちなみのあるまち
  - ③景観ルールの検討に関する項目を想定

「京都亀岡城下町」まちづくり憲章（2025年7月協議会承認）  
※対象地区内全自治会において説明会実施中

経緯 亀岡駅南周辺地区まちなみ・まちづくり構想策定調査プロポーザル'19.5～7（特定）／亀岡駅南周辺地区まちなみ・まちづくり構想策定調査業務委託'19.8～20.3／市民WS'19.11～20.1／亀岡駅南周辺地区城下町エリア支援業務'21.5～22.3／亀岡駅南地区まちづくり事業化検討基礎調査業務委託'21.2～22.3／令和4年度亀岡駅南周辺地区城下町エリアまちづくり支援業務'22.5～'23.3／亀岡駅南地区まちづくり事業化支援業務委託'22.6～'23.3／令和5年度亀岡市城下町エリアまちづくりアドバイザー業務'23.4～24.3／令和6年度亀岡市城下町エリアまちづくりアドバイザー業務'24.3～25.3／令和7年度亀岡市城下町エリアまちづくりアドバイザー業務'25.4～26.3

諸元 対象面積：約110ha 担当：中野、清水、茅根、山本、松浦、津曲、市民WS協力・（有）オーバーラップ並河みき

■結城・伝統的まちなみの保全とまちの活性化

[結城市] 2014-17

結城市は茨城県西部の人口約5万人の歴史都市、国重要無形文化財「結城紬」で知られるが、自動車社会進展とともに人口の郊外流出も進み、JR結城駅の北側に広がる旧市街は空洞化し、店舗閉鎖などが続いていた。市は駅北口周辺の区画整理事業にあわせ駅前道路の一部拡幅を完了するも、歴史市街への道路延伸の課題を抱えてきた。

■結城市街づくり基本方針策定／まちなか整備支援

アプルは歴史的市街再生のための街づくり方針の策定からまちなか整備支援を4か年にわたり、市民意見交換会（WS）の運営や、蔵造り建物の保存と「重要伝統的建造物群保存地区」の指定に向けて、文化庁と県・市との橋渡し役を果たしつつ、住民の方々との意見交換、事例見学会等に関わり、市長さんへの市民意見交換会答申のとりまとめ等に協力してきた。2018～19年は文化庁支援の伝統的建造物群保存調査が筑波大学藤川研究室を中心に行われてきた。その間、中野は学経の立場から、市景観検討委員会委員、都市計画道路見直し検討委員会委員長として、側面支援も行ってきたほか、引き続き市景観審議会委員として関わり続けている。

**課題①：まちなかの通過交通**

- 御朱印堀内を縦横に通って交通が入る
- 歩道も歩行者にとって安全性に課題

**課題③：現在の都市計画道路の計画状況**

- 都市計画道路が御朱印堀内を通り、歴史的資源が失われる可能性がある

**課題②：失われていく歴史的資源**

- 見世蔵などの歴史的建造物が一般建物や駐車場に・・・

**課題④：見世蔵等の保全・活用**

- 見世蔵を建て替える人が少ない
- 空家をどうするか
- 見世蔵以外にも景観の良・建物の残っているが、使われていない建物がある

**「まちなかの歴史的資源」**

御朱印堀・街割り

見世蔵・蔵・町家

結城城跡

寺社三門等の市指定文化財

市民ワークショップにおいて抽出された課題

これまでのワークショップの様子

平成26年度

平成27年度

平成29年度

市民ワークショップの状況 (H26~29)

平成26年度より開催している「まちなか整備計画検討ワークショップ」は、今年度で最後となります。最終回のワークショップでは、これまでの取組を振り返るとともに、各ワークショップ委員より感想をいただき、想いを共有いたしました。

また、これまでの取組の成果として、街づくりの事業提案を盛り込んだ『意見提案書』を作成いたしました。今後、『意見提案書』を関係各所に提出し、事業の実現に向けて提案を行ってまいります。

ワークショップを通じて、当日の様子をお伝えするとともに、『意見提案書』の概要、各ワークショップ委員の想い、アンケートいただいた主な意見等をお知らせします。



平成26年度(今年度)

まちなか整備方針(案)の検討

平成27年度

出店ワークショップ

- 活動を広げていたため準備・検討・実行
- 事業化に向けた準備

平成28年度～

出店ワークショップ

- 活動を広げていたため準備・検討・実行
- 一部事業化(予定)

市民ワークショップの市民ワークショップのプロセス

まちなか整備方針

まちづくりの目標・テーマ

- 歴史的資源の面的保全・活用
- 歩行者にやさしい道路づくり
- 各歴史的資源の魅力づくり/回遊性
- 情報発信

出店会 地元関係者への説明

出店会 地元関係者への説明

まちなかの資源

まちなかの資源

見世蔵などの歴史的資源

課題

- 見世蔵の多くは活用されていない
- 次々と歴史的な建物がなくなっている

改善策

- 現状の建物を壊して方法を考える
- 使っていない見世蔵を活用するための仕組みをつくる

まちなかの資源

まちなかの資源

見世蔵を伝える資源・史跡

課題

- 資源はあるが、あまり存在が知られていない
- 訪れた人が少ない

改善策

- 地域で回遊できる仕組み(体験場を街全体に展開)
- 街の物語(ストーリー)づくり
- 多くの人が公開できる場をつくる

まちなかの資源

まちなかの資源

見世蔵などの歴史的資源

課題

- 見世蔵の多くは活用されていない
- 次々と歴史的な建物がなくなっている

改善策

- 現状の建物を壊して方法を考える
- 使っていない見世蔵を活用するための仕組みをつくる

確認された課題と改善策提案

■結城・伝統的まちなみの保全とまちの活性化 (つづき)

**地域資源づくり 街並みづくり**

課題

- 老朽化とともに壊れていくものもつたない
- 建物を建て替える人が少ない
- 空家をどうするか
- 跡名寺三門は、ずいぶん前から閉じたままになっている

地域資源づくり 御朱印堀

課題

- ゴミが捨てられていた
- お寺の中(お墓の中)を通るの気が引ける

課題

- 案内板が不明瞭
- 近くに歩行者がいないと御朱印堀がどこにあるのかわからない

**見世蔵等の保全・活用**

課題

- 建物を建て替える人が少ない
- 空家をどうするか
- 跡名寺三門は、ずいぶん前から閉じたままになっている

課題

- 見世蔵の多くは活用されていない
- 次々と歴史的な建物がなくなっている

**地域資源づくり 新たな魅力づくり**

課題

- 店舗や住宅の近所に店名・自宅名を掲げているが店舗が住宅の区別がつかない

良い点

- 路地の雰囲気が良い
- 歩きやすくなる歩道づくり

**道路・交通**

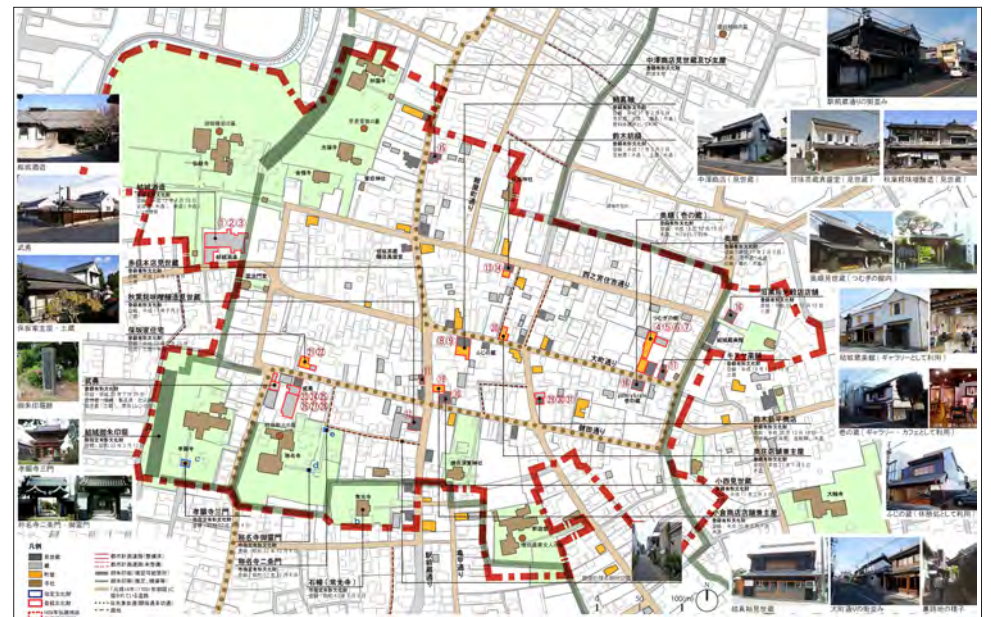
課題

- 歩道が狭い
- 道路の拡張は、特色・良い所をなくす

良い点

- 車道がクラックしている箇所は自転車のスピードがゆるくなって歩行者にとっては安全

市民ワークショップで確認された地域資源



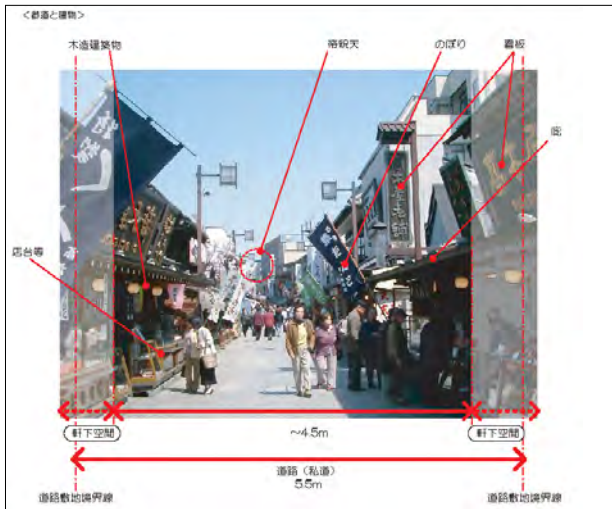
結城の中心市街に残る歴史的建物(社寺・蔵・町家等)と伝統的建造物群保存地区(案)

経緯 結城市街づくり基本方針検討業務委託 14.6～15.3 / 結城市街づくり基本方針策定支援業務委託 15.6～16.3 / 結城市まちなか整備支援業務委託その1 16.7～17.3 結城市 / 結城市まちなか整備支援業務委託その2 17.8～18.3 / 伝統的建造物群保存対策調査 18～19年度、筑波大学藤川昌樹研究室(協力・小山高専藤井さやか研究室、国土館大学横内研究室)

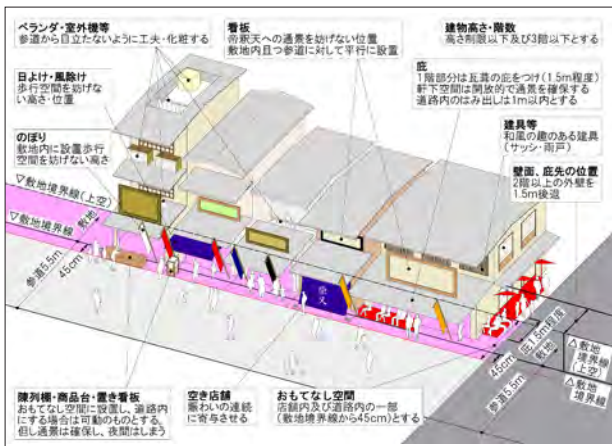
東京のしゃれた街並みづくり推進条例において、柴又帝釈天地区は街並み景観重点地区に指定され、地元神明会主催のプロポーザルを経て、アプル（中野）が同条例にもとづく街並みデザイナーとして選定された。アプルは、アドバイザーとして地元商店主等からなる街並み協議会（準備協議会）に参加し、地元主導での街並みガイドライン検討を3年にわたり支援した。

沿道店舗の営みと参道を行き交う人の流れが交り合う軒下空間は、地区の特徴的なにぎわいをつくる一方で、緊急車両の通行空間確保等の問題を抱えていた。ガイドライン策定にあたり、建物表層に加え軒下に関するルールづくりを行った。あわせて参道沿いの建物の多くは木造であり、当時の法規制の下で建替えが進めば、現在の雰囲気を残すことが難しいという課題も残された。

その後も適宜、地元足を運び、都・区を交えて街並み保全と改善策の模索を進言し、国の「文化的景観地区」に2018年2月指定された。またアプルから独立した田邊寛子氏が継続的にアドバイザー役を担うことで、更なる街並みの改善が計られてきた。



参道の特徴



まちなみづくりのルール（案）説明用のイメージ図（田邊寛子作）

経緯 街並みデザイナー選定プロポーザル '04.8（特定） 街並みデザイナー派遣・柴又帝釈天周辺地区 '04.10～'05.3 東京都・柴又まちなみ協議会、街並みデザイナー派遣（2年次）・柴又帝釈天周辺地区 '05.5～'06.3 東京都・柴又まちなみ協議会、街並みデザイナー派遣（3年次） '06.5～9 東京都・特定非営利活動法人柴又まちなみ協議会（2006 法人認定） /



位置図および重点区域内の制限等

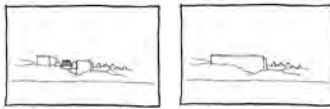


当時の参道沿道の街並み状況

既存の街並みのなかで、建替えされた店舗は道路上の庇のせり出しが無く、可動式オーニングが付け加えられ、次第に街並み風情が変化しつつあった。



a. 帝釈天への眺望を阻害するような位置に建てない。

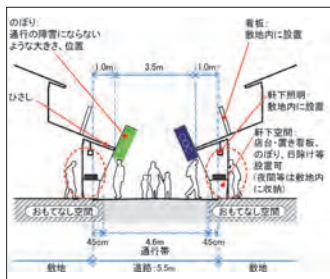


b. 眺望点に対して板状の建物は建てない。



c. 周囲の線や歴史的建築物（帝釈天）・木造建物と調和した景観形成に寄与する建物とする。

眺望景観の保全（案）



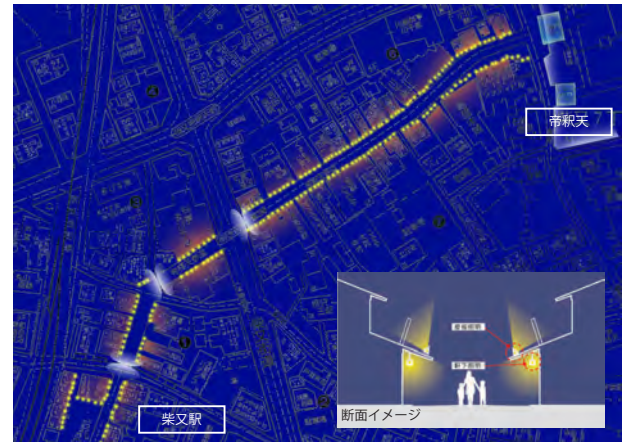
参道のまちなみづくりのルール（案）断面図

■柴又帝釈天参道ライトアップ

柴又神明会 2006

街並みデザイナーとしての活動に参加するなかで、沿道 200 m 区間の既設の水銀灯によるポール照明を改め、参道商店街の特徴でもある道路上の庇の下に連続的なぼんぼり照明を吊るすとともに、看板を LED 照明等で浮かび上がらせることで、歩行空間もより明るくする手法を提案した。その提案をもとに柴又神明治会で国および東京都の支援を受けた共同施設整備事業を実施、アプルは計画～設計・監理を担当した。

とりわけ沿道関係者立会のもとでの照明実験により、その効果を確認し、各店舗の協力のもとに、新規配管配線類を目立たない位置に設置することが可能となった。参道は美しくライトアップされ、下町情緒あふれる通りとなり、夜間の通行人も増えたと言われている。その結果が評価され、2006（平成 18）年照明学会普及賞を受賞した。



照明配置イメージ（平面図）



2004年9月24日朝日新聞朝刊（東京版）に掲載された活動の紹介記事

経緯 柴又帝釈天参道アーチ意匠監理 '06.3 かがつ株式会社・柴又神明会／柴又帝釈天参道ライトアップ事業・設計監理 '06.5～9 柴又神明会 諸元 事業主体：柴又神明会 所在地：東京都葛飾区柴又7丁目 参道：幅員5.5m 延長：188m 照明工事（工期）2006.7～9 ぼんぼり照明 266基 看板照明 100基 担当：中野、田邊、池田



雨天のなかで行われた照明実験



連続式ぼんぼり照明



従前の状況



同上とゲートアーチ照明



従前の状況



看板照明

門司港地区は地元市民や企業等を母体とする「門司港レトロ倶楽部」などの市民活動等に支えられ、90年代以降は北部九州を代表する一大観光スポットとして脚光を浴びるようになってきた。観光客が増加したとは言え、多くが短時間滞在型で、特定の地区への集中など旧市街を含めた周辺への波及効果が乏しいと言った問題も多方面から指摘されていた。また一方で人口減少傾向も続き、古い倉庫や事務所、町家などの歴史的な建物も何棟か解体されるなどの課題も依然として残されてきた。

本調査は、これまでの様々な事業の積み重ねを評価しつつ、歴史的な遺産の活用を含め、門司港地区の街づくりのあり方を検討し、まちづくり交付金の活用も含め、包括的な対策を施すことを目的としたものである。なお、同時並行して都市再生モデル調査－歴史的遺産を活用した門司港地区都市再生調査（企画局・港湾局）、西海岸地区港湾用地等の活用方策検討調査（港湾局）が進められた。これらとの調整を図りつつ、今後の街づくりの指針となる総合計画としての性格も有し、これがその後の面的広がりを有するレトロ観光への契機ともなった。



門司港周辺地区全体計画図

経緯 門司港地区まちづくり総合支援基本計画 '04.1～3（北九州市）



風情のあるまちなか界隈



老松町・東本町1丁目界隈



地形の起伏のある界隈



清滝地区

担当：中野、岩村、田邊、松尾、協力：萩原総合計画事務所（萩原真）

門司港地区はレトロ事業によるウォーターフロント、広場・緑地等の整備、旧税関等の歴史的建物の保存修復などの結果、そのイメージを一新した。しかし一方で、公共空間の整備に偏り、賑わいも第一船溜まり周辺に限定されるなど、今後、点から線、面への広がりの必要性、民間活力の導入などが求められてきた。本調査は今後のレトロ地区の地域活性化に向けての総合調整のための基本構想（第2期整備構想）としての意味を有している。全体のマスタープランについてのハードな検討はアブル、ソフト戦略は北山創造研究所（代表・北山孝雄）による共同作業で進めてきた。

ここでは観光に特化した街づくりではなく、生活街づくり＝「門司に住みたい」と観光街づくり＝「門司を訪れたい」の共存する生活テーマパークを目指し、地区内各ゾーンに相応しい計画づくりを提案した。新浜地区9号上屋跡地活用、柴町商店街との連携を深めるための仲見世街の整備等の提案は、後に実現する。



まちづくりの基本的考え方



整備構想ダイヤグラム



門司仲見世ストリートの提案（例）

新浜9号上屋跡地活用（提案）

経緯 門司港・和布刈地域振興基本計画 '96.5～11 / 門司港レトロ第2期計画実施計画 '98.1～3

担当：中野、萩原、金光、角倉、岩村、熊耳、星野、協力：北山創造研究所（北山孝雄・金田真人）

西海岸地区に新たな集客施設「県立文化拠点施設・関門海峡ミュージアム・海峡ドラマシップ」が2003年にオープンした。その集客効果も含めて、多くの来街者が見込まれる中で、西海岸の港湾関連用地および旧大連航路上屋1号倉庫の活用計画の検討を行ったものである。

2004年度調査は旧大連航路上屋の活用計画を主眼とし、幾つかの代替案検討を経て、港湾緑地内休憩所を併設した地域交流施設としつつ、屋上部は緑地広場として国道3号へとつなぐ歩行者デッキを提案した。

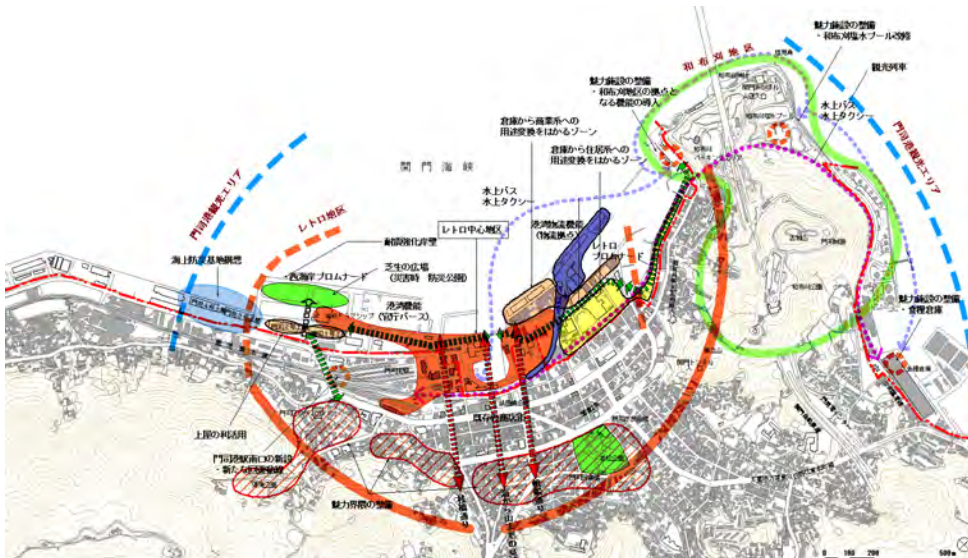
2006年度調査は港湾計画改訂を睨み、将来的な港湾地区全体の土地利用再編のあり方を検討することとなり、財団法人港湾空間高度化環境研究センターのもとに門司港地区臨海部再編計画策定委員会(委員長・片野博九州大学大学院教授一当時)を設置、アブルは旧大連航路上屋1号倉庫の利活用の実現に向けての検討作業を担当した。その後、旧1号倉庫改修と国道3号線高架歩道接続工事は2013(平成25)年に完成した。



西海岸地区港湾地区鳥瞰写真



西海岸地区整備イメージ図(2004年度)



門司港地区臨海部再編全体整備構想(2006年度)

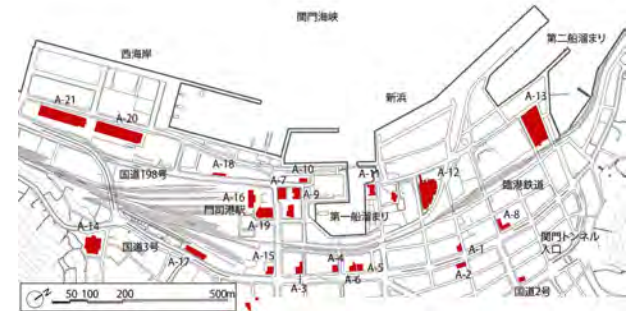
経緯 西海岸地区港湾関連用地等活用検討調査'03.11~'04.3(北九州市)/北九州門司港地区臨海部再編調査に関する補助作業'06.8~'07.3(北山創造研究所、環境デザイン機構と協同(港湾空間高度化環境研究センター/北九州市) 担当:中野、岩村、松尾、加藤、田邊、笠間、柴田、協力:萩原総合計画事務所(萩原真)

門司港レトロ地区は、開港以来の繁栄の歴史を物語る数多くの歴史的建造物が存在している(下図)。これらのうち、幾つかの主要な建造物は保存対象となり、レトロ事業(ふるさと事業)や歴史的港湾環境創造事業等の支援を受けて保存修復の対象となるも、一市井に残る幾つかの建造物は地元市民の保存要望にも関わらず、解体されたものも少なくなく、早急に現存している建造物の状況を把握したうえで、何らかの保存活用方を講じることが求められていた。

本調査は現存する歴史的建造物リストを作成し、各々の所有者の同意を得て、建物現況調査および評価、所有者意向調査、活用方法の検討などを行ったものである。リストは30棟近くに及んだが、所有者の同意を得て調査できた建造物は計13棟に留まった。第一編ではその調査概要(建物基礎データ、意向調査)、第二編は活用方法も含む回遊性ネットワーク等の提案、第三編は残念ながら解体が決定した学校法人北九州YMC A学園信愛幼稚園の詳細な建物調査記録(協力:九州大学片野研究室)として取りまとめている。



解体直前の調査対象となった北九州YMC A学校法人北九州学園YMC A信愛幼稚園(旧YMC A門司プラザ、1916(大正5)年築、レンガ造2階建て、設計者はデラランドと言われていたが、確認は得られなかった)



門司港地区における歴史的建造物の分布

A-1 福岡中央銀行門司支店	A-2 福岡ひびき信用金庫門司港支店	A-3 福岡シティ銀行門司支店	A-4 日本郵船通商九州支店	A-5 明治門司営業所	A-6 大分銀行門司支店
A-7 門司船政ビル	A-8 N T T 門司営業所	A-9 旧大坂商船	A-10 ホームリಂಗー商会	A-11 旧門司税関	A-12 門司港レトロ駐車場
A-13 三井倉庫門司支店倉庫	A-14 門司区役所	A-15 山口銀行門司支店	A-16 J R 門司駅	A-17 九州鉄道記念館	A-18 海運ビル
A-19 J R 九州旧本社ビル	A-20 西海岸1号上屋	A-21 西海岸2号上屋	A-22 旧門司三井俱樂部	B-1 関門連絡船通商路	城外:福岡食糧事務所門司倉庫

主要な歴史的建造物リスト

経緯 門司港レトロ歴史的建造物活用計画策定調査'99.2~3(北九州市)/歴史的遺産を活用した門司港地区都市再生調査'03.12~'04.3(北九州市) 担当:中野、岩村、熊耳、田邊、松尾/協力:萩原総合計画事務所(萩原真)、(株)UFJ総合研究所(別途委託)

新日本製鐵（現・日本製鐵）九州製鐵所八幡地区工場は1901（明治34）年開業の旧官営八幡製鐵所にそのルーツがある。工場構内に残る一連の産業遺産群が2007年の経済産業省・近代化産業遺産群「八幡製鐵所関連認定遺産」に指定されたことを機に、同社内で当該施設群の保存活用、工場の一部限定開放の可否について検討することとなり、アプルも検討チーム内に加わることとなった。

検討作業は歴史的産業遺産群の調査と保存活用方策とあわせ、限定開放に際しての工場機能との調整のための検討調査整備方針（案）の作成を依頼された。作業体制は（株）リンクが全体調整を行い、レンガ造の本事務所（1899〔明治32〕年築）の学術調査および検討委員会委員長を片野博九州大学教授（当時）、アプルは具体的には史料や既往建物調査の確認、現況確認と建物等の修復にかかる技術的検討および構内一般開放にかかる課題整理とそれに関する計画代替案の作成を担当した（ユネスコ世界文化遺産登録「明治日本の産業革命遺産」の指定は2015年）。

その後、本事務所は2014（平成26）から2020（令和2）年に改修工事（設計施工：大林組）が行われている。2025年段階では本事務所および周辺施設の限定公開には至っていない。



工場敷地内に残る「八幡製鐵所発祥地」の石碑



東田周辺地域の近代化産業遺産群マップ／凡例

- A：東田第一高炉跡（通称1901高炉広場）  
現存するのは第10次改修高炉（1962年改修）
- B：旧本事務所（赤レンガ造1899年築）
- C：旧修繕工場（赤レンガ組2階建洋小屋組1900年築）
- D：旧鍛冶工場（鉄骨造1900年築）
- E：操業当時の資料（Dの内部）
- F：西田岸壁～松ヶ島岸壁（1906～1922年築）
- G：くろがね線宮田山トンネル（1927～29年築）
- H：河内貯水池（重力式コンクリートダム1927年築）
- I：高見倶楽部（1900年代築、移築、1928改築）
- J：大谷会館（鉱滓煉瓦造2階建1927年築）



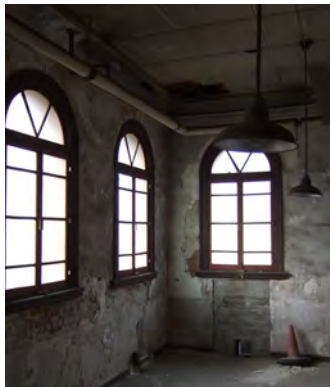
旧本事務所

【福岡県史】近代史料編 八幡製鐵所(二)一九〇八年 付図

当時の大日本帝國製鐵所（旧八幡製鐵所）全図における本事務所建物の位置



旧本事務所（1899年築・赤煉瓦積石造2階建 延床面積1,023㎡・調査時点での写真）



旧本事務所の内部（調査時点での写真）

経緯 八幡製鐵所近代産業遺産（建築物）保存・利活用検討'08.10～'09.2 [株]リンク（新日本製鐵所[株]）、歴史的産業遺産検討委員会・委員長：片野博・九州大学教授 統括：新日本製鐵東田開発企画GR、総合調整：[株]リンク、史料整理・保管検討：[株]丹青社、全体計画・建物耐震計画等：[株]アプル総合計画事務所 担当：中野、萩原、笠間、柴田



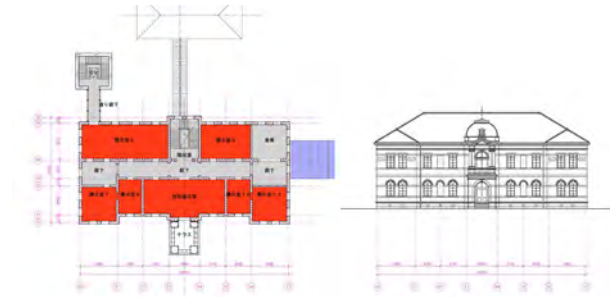
旧鍛冶工場（1900年築・鉄骨造）

- ・当初修繕工場の北側に建設されたが大正時代に現在地に移設
- ・調査時点では製鐵所操業当時の貴重な資料を保管する資料室として活用。



旧修繕工場（1900年築）

- ・鉄骨造／調査時点でも現役の工場としても稼働していた。



本事務所保存活用検討案の一例



旧鍛冶工場の鋼材にドイツからの輸入材であることを示す Gute Hoffnungs Hütte（G.H.H.社）の刻印



- |    |   |  |   |
|----|---|--|---|
| 凡例 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:orange; border:1px solid black;"></span> 展示  | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:purple; border:1px solid black;"></span> 研究室・事務室    | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border:1px solid red;"></span> 既存建物（旧本事務所、旧鍛冶工場）                    |
|    | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow; border:1px solid black;"></span> 收藏庫 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:grey; border:1px solid black;"></span> 休憩・廊下・便所・その他 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:blue; border:1px solid black;"></span> 新設建物（新築、増築） |

将来の歴史的産業遺産群の保存活用・開放のための構想・代替案の一例